

育成会活動の活性化と今後の課題

～支部活動の役割を考える～

全国手をつなぐ育成会連合会
会長 久保 厚子

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

1

育成会(親の会)組織の意義

我が子の暮らしを思い始まった育成会

- ・ 育成会（親の会）のように我が子の日々の暮らしから始まって活動をしてきた組織の意義は大きい
 - ・ 自分たちの組織の歴史や実践を大切にしながら今の時代や社会・暮らしを見極めて役割を果たすことが出来れば、もっと障がいのある人が市民と共に社会参加するための推進役になれるはず
- ⇒そのためには自己改革が必要！
- ・ 実行するには、自己改革や時には自己否定も伴う

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

2

育成会のこれまでの活動

- ・ 現在よりも偏見と差別が激しかった時代に
勇気と英知を結集させて育成会の基礎を作り、
政策提言や今ある制度をつくる運動を展開され
現在も障害者がその恩恵を受けてつ
て暮らしています。
精神薄弱者福祉法、知的障害者年金制度
重度精神薄弱児扶養共済手当、JR運賃割引
特殊学級制度、全員義務教育、特別児童手当
拡大
- ・ こうした活動は今後も不可欠です！

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

3

市町育成会活動の停滞化

若い親の入会が無い

- ・ 育成会に入ったら何をしてくれるのか。
- ・ 役を持たされたり、動員されるのがいやだ。

会員が高齢化し減ってきた

- ・ 子どもはGH（施設入所）で、親は高齢で活動
に出て来れない。

役員を代わってくれる人が無い

- ・ 若い会員は共働き。
- ・ 障がいの子と、高齢の親をかかえて活動でき
ない。

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

4

市町村育成会にとっての困難点

会員が減り会費収入が少ない

- ・市町村合併時に組織できていない
- ・活動も難しくなった

行政や社協からの補助金が減額

- ・市町村合併で1市になり、補助金が減った

育成会活動への理解が無い

- ・育成会活動は障害児者の生まれてから死ぬまで幅が広く解りにくい

障害者に対する地域の理解が無い

- ・活動に対する協力者が少ない

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

5

組織力の強化(その1)

良い組織(チーム)は仲良し集団ではない

- ・チームワークを良くすることが目的化している組織では目的は達成できない

リーダー自身が変わることに本気になる

- ・リーダーであってもスーパーマンではない
- ・権力ではなく信頼が大切
- ・会員の声を傾聴しよう
- ・リーダーは説明業である

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

6

組織力の強化(その2)

理念・目的・学習による協働意欲・コミュニケーションが重要

1 理念と目的を共有する

- ・ 育成会とは (理念)
- ・ なぜ、何のために育成会に入っているのか (理念)
- ・ 「ありたい姿」「なりたい姿」を持つ (目的意識)

2 学習による協働意欲・コミュニケーション

- ・ 育成会はみんなのもの、みんなでつくるもの、誰かがしてくれるものでも、一部の役員がするものでもない (協働・共有意識)
- ・ 良い対話の場を持つ (気楽にまじめな話をする)『たまり場』をつくる (協働・共有意識)

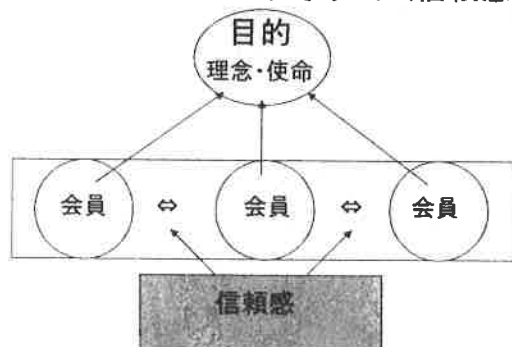
岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

7

組織力の強化(その4)

1 コミュニケーション(対話)の必要性

- ・ 会員の声を傾聴する (思いを共有する)
- ・ このメンバーと一緒にやっていきたい (信頼感)
- ・ このメンバーなら出来そうだ (信頼感、効力感)



岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

8

組織力の強化(その5)

2 チームワークを良くする

- ・「楽しいこと」「嬉しいこと」「困っていること」「不安なこと」「愚痴」を語り合う
- ・「集う」「語らう」「理想に挑戦する」「明るくたのしい活動」「ふれあいと確かな信頼」

⇒元氣のあるところ、気持ちのいいところ、楽しんでいるとことに人は集まる

3 意味づけし、「成長」につなげる

- ・学習することで「成長」する
- ・「悩み」や「愚痴」は、「夢」や「願い」の裏返し、明るく・楽しく、夢と願いを実現する

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

9

地域での理解を得る(その1)

障がいのある本人が地域で豊かに生きる

1 どんな街に住みたいのか

- ・住み慣れた地域、親や家族の住む地域、友人の沢山いる地域

2 どんな社会なら安心でき、幸せに暮らせるのか

- ・安心が感じ取れる地域は、地域のみんなで皆を支える「仕組み」「システム」の創造

3 実現するには、どこに、どんな働きかけが必要か

- ・行政、社協、保険所、福祉関係機関、飲食店、医師、教師、消防士、会社員等だけではなく、各方面の市民組織との連携

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

10

地域での理解を得る(その2)

社会がよくなり、地域がよくなり、人が幸せに暮らせる

- ・自分たちだけのことを考えるのではなく、地域のことも考えよう。

求めるだけでは得られない

- ・社会や地域に喜ばれることをしよう。
- ・利益を得ることは、儲けることではない、ご利益である。

⇒地域を耕し、「地域づくり・街づくり」につなげる

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

11

地域での理解を得る(その3)

「地域づくり、街づくり」を通じて理解を得る

- ・社会貢献を通して誰もが知る存在になろう。
- ・小さな活動でも、地域にとって、なくてはならない存在になろう。
- ・直接的な触れ合いの中から心のバリアフリーが生まれる。
- ・障がいのある本人の、地域生活支援の礎となる。
- ・地域の文化やニーズを知ろう。

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

12

会員の拡大

会員拡大は地域づくり運動の中から

- 1 「夢」や「願い」を話し合い、実現しよう。
- 2 地域の誰もが知る存在で、協働者をつくろう。
- 3 協働者を会員にしよう。

目標と計画とアイデアで

- 1 明るく、楽しく、生き活きと、計画的に活動しよう。
- 2 若い会員は簡単には入って来ない。
- 3 上手くいなくてもへこたれない、根気強く活動しよう。
- 4 いいなと思ったら、真似でもいいからやってみる、工夫してやり続ける。

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

13

育成会活動は地域づくり活動

社会貢献で社会活動

- ・ 社会貢献（喜ばれる活動）を通して、社会活動（社会参加）をしよう。
- ・ 地域の中での、育成会の存在意識を明確にしよう
- ・ 障がいのある本人を中心に、お互いの理解と信頼をもって、みんなで皆を支え合う協働の地域づくりをしよう。
- ・ 楽しいイベントや学習を通して「成長」しよう
- ・ 必ず人は集まり、活性化する。

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

14

求心力のあるテーマの設定

- ・地縁血縁が弱い現在の地域社会で、住民に活動に参加してもらうことはとても難しい
- ・そこで、地域住民に広く関心をもってもらうには、他人事でなく自分も関わる可能性のあるテーマや無関心ではいられないテーマの設定が必要



岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

15

- ・地域活動に地域住民に参加してもらうには、求心力があるテーマが設定が有効的
- ・それは、災害を想定したものや子どもが犯罪被害や交通事故に遭わないようにする、安安全全に関するものなどが比較的求心力を持ちやすい
- ・ただし、そのテーマの下で、どのように仕掛けを作り、積み重ねて、地域住民のエンパワーをつけていくかが重要



岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

16

- ・ 誰もが無関心でいられず、
- ・ 体が自然に動くテーマを地域ごとにみつけ、できそうなところから始めて、
- ・ その成果が出てから他にもある地域社会の重要なテーマに手を広げていくことが、地域の支え合い活動を拡大し活発にする手順と考えられる



岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

17

障害者の世界も高齢化に向う

- ・ 日本の労働力は既に減ってきている
 - ・ 福祉に回ってくるお金も今のように無い
 - ・ しかし、障害者の高齢化も今より進む
 - ・ 5年以内に出来るだけ整備する必要がある
 - ・ 10年以内には大きく減少していく
- ◎今から子供の将来のために必要なものを創っていく必要がある



岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

18

我が子の将来を考える

- ・ 我が子の将来はどうあるべきかを見て、今どうすべきかを考えよう
- ・ 我が子が終末期をどう過ごすか？を想像しよう
- ・ ウラ返すと、生（今）をどう過ごすかになる
- ・ 個々の人の幸せを目指して、皆の幸せに繋がる
一人は皆のために、皆は一人のために
（自分の幸せは、次の世代の幸せにもなる）



岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

19

我が子の将来は本当に安心か？

- ・ 親が亡くなったら、行政や事業所が何とかしてくれる （本当に何とかなるのか！）
- ・ ほってはおかないでしょう。しかし、我が子に適した不足の無い支援になる保障は無い
- ・ 我が子が生涯に渡って、豊かに幸せに暮して欲しい（親の願い⇔育成会の原点）
- ・ そのためには何が必要かを考えよう！
- ・ 何があれば、親が居なくなっても、我が子はもっと豊かに暮らせるのか
（必要なものを見つける）

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

20

ライフプラン作りと生活支援ノート

- ・ 家族支援プログラムとライフプラン作りを通して、親子の関係と将来の自分と我が子（我が家族）の姿を想像しよう。
⇒明日からの活動や意識の持ち方の再スタートとなる。
- ・ 滋賀県育成会から始まった「健康生活支援ノート」「親心の記録」「サポートブック」作りとその活用。
⇒高齢化を含め、第三者に我が子を託す準備をしよう。

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

21

ニーズを実現するには

- ・ 自分たちのニーズを実現するために、若い親を誘う
- ・ そのためには、若い親のニーズに気づき、その実現のために協力しよう
(お互いが協力し合い、皆が幸せになる活動を)
- ・ 高齢の親は、経験からの知恵と言語力で
- ・ 若い親は、新しいアイデアと行動力で



岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

22

若い親も求めている

制度にないものを手づくりで実施

若い母親たちが自主的に始め、活動の場に…
(堺市・甲賀市)

相談支援事業所も困っている

障害のある本人のニーズを実現するには、今ある制度をつなげる（コーディネート）するだけでは不可能

- 制度だけでは実現しない、本人の願いや希望（ニーズ）を親（あなた）は知っていますか？

若い親の実践例

- ・ 堺市の活動から（30歳代の親たちの活動）
0歳からを対象にした活動（ニーズに対応して）
おもちゃ図書館（ぽっぽ）、外出グループ（ぴっぴ）、プログラム支援（週2回：小さなセミナー、幼児の母親向け連続勉強会、なべさんのしゃべり場、防災ワークショップ）
重複障害児の遊び場（ぷらっしゅ）、講師派遣、余暇支援（ぷらむの家）、児童デイサービス（ぽんた・ぱんだ）、ぽっしえ（支援グッズの本格的なお店）、相談支援（支援プランセンター）
- ・ 制度にないものを手づくりで実施
若い母親たちが自主的に始め、活動の場に…

活動の事例として①

- ・愛知県では、震災時の被擁護対象者の自宅を、障害者と相談支援員が民生委員とともに回っている
- ・お互いに助け合う時の情報収集と理解が広がることにつながっている
- ・その街の、どこにどのような人が住んでいて、被災時にどのような支援が必要かが分かってきたので、そのシステム作りを検討する

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

25

活動の事例として②

- ・滋賀県大津市では、育成会からの依頼により災害対策として、被擁護対象者（特に避難所で過ごせない障害者）がとりあえず頼って行ける場所（福祉避難所として障害者事業所）を設定
- ・市内を5ブロックに分けて、被擁護対象者が被災時に一番近くの福祉避難所に駆け込めるようにし、全事業所で連携を取って、更に安心して過ごせる福祉避難所に送迎する

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

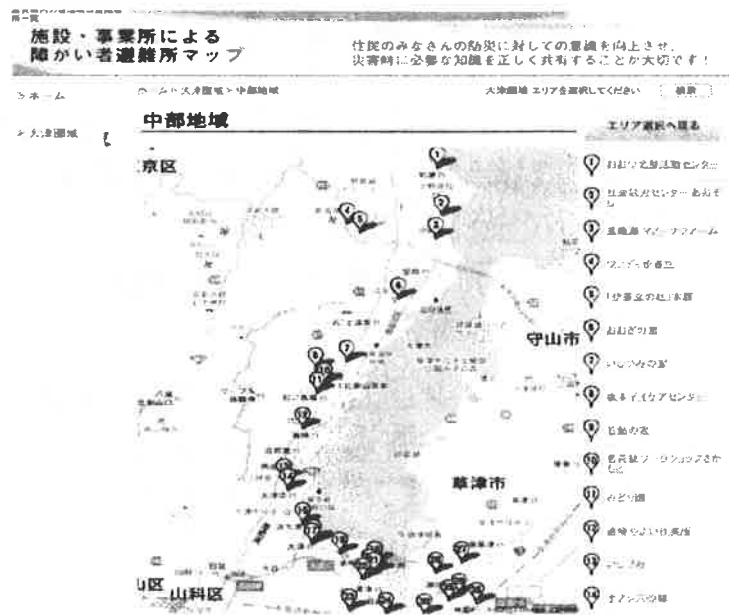
26

- ・5ブロックに分けた「避難所マップ」と災害時の「避難のしおり」を、大津市職員、社協職員相談支援員、事業所協議会、育成会等で協議検討を行い作成（マップ参照）
- ・「マップ」と「しおり」をセットにして市内の全障害者と事業所、市役所や公的機関、社協、民生委員などに配布
- ・更に、医療機関との連携を検討中



岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

27



岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

28

連携と協力体制で

- 市町村育成会の活動は、お互いに協力しあい参加し合う方法も可とする。
- 市町村育成会の活動を県の育成会が協力する。（行政への要望活動、障害基礎年金取得の研修会、本人の性に関する学習会、など）
- 県内の市町村を県の育成会が回って各地域の課題やニーズの把握のための検討会を行う。
- 県内の通園事業所へ、その地域の市町村育成会と県育成会でまわる。

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

29

現在の課題

- 年金不支給（減級）
- 高齢化
- 地域での暮らしを支える（拠点）
- 条例作り（差別解消法を補完）
- 意思決定支援（自己選択・決定）
- 成年後見制度の利用促進と課題整理
- 共生社会
- 社会福祉法人の改革

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

30

あらたな全国の育成会に!!

- ・「全国手をつなぐ育成会連合会」は、障害のある人の権利擁護と自立のための共生社会をめざして幅の広い活動を行います。
- ・組織をスリム化し、フットワークの良い活動になります。
- ・全国8ブロックでの地域連携の強化により、地方組織の活性化を目指します。
- ・全国の会員の問題となっている課題について政策提言や要望を行い、その実現のための運動を強化し進めます。
- ・将来を見通した組織運営で、全国の育成会が連合体として発展し、障害のある本人の豊かな生活と活動の実現を支援します。

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

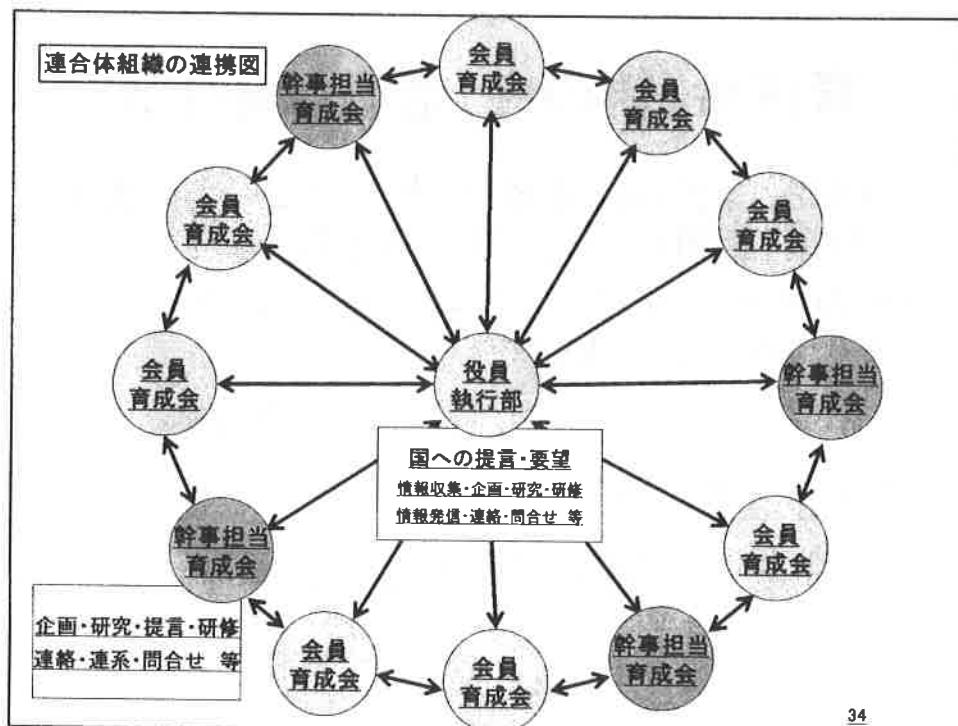
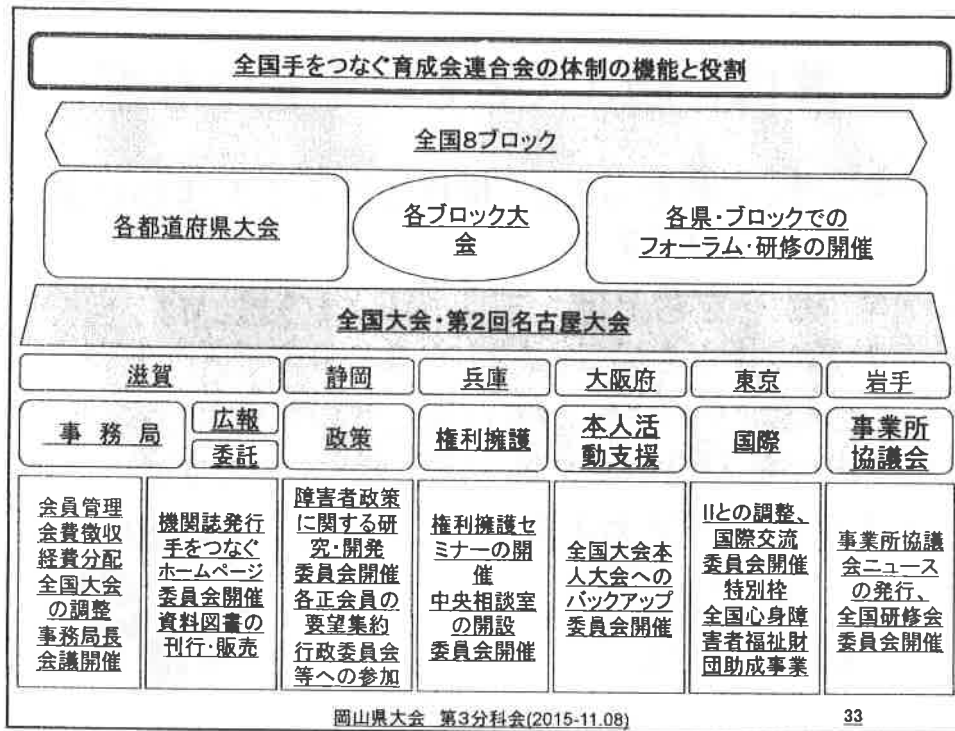
31

全国手をつなぐ育成会連合会

権成員 23万人		各区市町村育成会		
総 会	会員 3万3千人	都道府県育成会	政令指定都市育成会	56 正会員
		各ブロック選出長 8名		
役 員 会	ブロック 長会	各ブロック選出長 8名		監事2名
	運営委員会	幹事担当選出 6名	全体推薦7名	
		会長1名	副会長 3名	

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

32



世代を超えてともに手をつなぎ

- ・今こそ、これからこそ、世代を超えての活動が求められています。
- ・育成会を立ち上げた三人の母親の思いは、自分たちの子どものことだけではありませんでした。
- ・この精神を引き継いで活動しているはずの私たちも、皆で良くなっていく思いが大切です。
- ・育成会の団結力の見せどころです。



岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

35

育成会(親の会)活動は地下水

- ・育成会(親の会)活動は、地下水のように大地(社会)を潤し、人を潤し、人を育てます。
- ・その歩みは遅くとも、社会に役立ち、社会になくってはならない活動です。



- ・育成会(親の会)だからこそ出来る、社会を潤す活動を活性化させましょう。

岡山県大会 第3分科会(2015-11.08)

36

この子らを世の光に

『この子らは、どんなに重い障害を持っていても、だれととりかえることもできない個性的な自己実現をしているものなのである。人間と生まれてその人なりの人間となっていくのである。その自己実現こそが創造であり、生産である。』

私たちの願いは、重症な障害をもったこの子たちも立派な生産者であるということ認め合える社会をつくろうということである。

「この子らに光を」あててやろうというあわれみの政策を求めているのではなく、この子らが自ら輝く素材そのものであるから、いよいよみがきをかけて輝かそうというのである
『この子らを世の光に』である。』

糸賀 一雄

